

【レポート作成の前に】

1 レポートと感想文の違い

大学で求められるレポートとは、どのようなものでしょうか。これまで皆さんが書いてきた感想文や作文と、どのような違いがあるのでしょうか。

まずは下の5問で予備知識をチェックしましょう。「レポートとして認められる」と判断できるものは○、そうでないものには×をつけてみましょう。

Q1	自分の考えや体験を自由に書くことができる	○	×
Q2	テーマにそって自分なりの「問い」を設定する	○	×
Q3	テーマに関する資料を調べる必要がある	○	×
Q4	客観的事実を根拠として、論理的に説明する	○	×
Q5	比喩、体言止めなどの表現技法を用いて感性豊かで効果的な文章を書く	○	×

	感想文	レポート
目的	・何を感じたのかを文章に表現することで説明の力を養うと同時にそれらを客観的に見つめることで自らの感性を磨く。	・「事実」と「意見」を区別して書く。 ・論理展開の過程を明確にする。 ・自分自身の結論や主張を明確にする。
テーマ設定	テーマ設定は自由。 例) 読書感想文では、その本から感じたメッセージ、個人的に印象深かったテーマなど。	大枠のテーマが与えられることが多いが、そこから自分なりに「問い」を設定する。
構成	構成は自由だが、「起承転結」で書くことが多い。 例) 読書感想文 起—この本を選んだ理由 承—最も感銘を受けた内容 転—承に関する自分の体験談 結—自分の成長課題	一般的に、序論→本論→結論の三段論法で書く。 例) 地球温暖化が与える影響について 序論—問題提起 本論—客観的論証 調べた事実を中心にまとめる 結論—考察のまとめ
内容	・自分の考えをより豊かに効果的に表現するために、会話文を挿入し、修辞技法（レトリック）を用いることもある。 例) 比喩、倒置法、擬人法、体言止めなど。	・さまざまな文献・資料にあたり、事実関係を調べ、そこから読み取れる事実をまとめる。 ・修辞技法や婉曲表現を用いず、論理的かつ簡潔な文章で自分の考えをまとめる。
文例	課題例：「歩きスマホ」の危険性 私はVTRを視聴するまで「歩きスマホ」の危険性をそれほど実感してはいなかった。実際に大学内を見渡してみても、多くの学生が一度に学生食堂に移動する昼休みに、歩きスマホをしている学生は多い。また、これまでに歩きスマホが原因で、事故や怪我があったという事例を聞いたこともなかったからだ。 しかし、授業で紹介された事例や資料データを読むと、年々事故件数が増加し、その程度も悪化していることがわかる。緊急な要件があるわけでもないのに、すぐに友人に返信したいなどの理由で誰かに怪我を負わせてしまうまで気付けないとしたら、それは大変不幸なことだ。 現代では「スマホ依存」に陥る若者が増加している。本来、スマートフォンは通信手段であり、道具であるはずだ。道具に支配される人生から抜け出すためにも、まずは意識的にスマホに触る時間を減らしていきたいと思う。	課題例：「歩きスマホ」の危険性【書き出し例】 近年、スマートフォンを歩きながら使用する「歩きスマホ」が社会問題となっている。(中略)しかし、画面に没頭すればするほど、視界が狭くなり、周囲への注意力も散漫になるため、歩きスマホは事故やトラブルの原因となる。駅のホームで階段を踏み外して大怪我につながるなどの危険性があるほか、他人にぶつかって怪我をさせてしまう可能性もある。実際に、携帯電話やスマートフォンを歩きながら使用し、駅のホームから転落する事故も発生しており、ニュースや新聞などでも歩きスマホの危険性が取り上げられている。 (中略)スマートフォンユーザが半数を超え、「歩きスマホ」による事故が増加している現状から問題点を分析し、ユーザ・非ユーザの両者が安心して生活できる社会を実現するために、どのような手立てを講じるべきかを考察する。